

我が国における交通事故による死者数は平成13年時点で年間8,747人、交通事故による負傷者数は118万人強を数え、依然として厳しい状況にある。このような状況下、ここ数年来、科学的分析に基づいた交通安全対策の重要性が謳われ続けており、データベースの整備、各分野の専門家による交通事故要因分析等が実施されてきている。当研究室でも、主に警察庁・国土交通省が整備してきている交通事故統合データベースを活用し、交通事故発生要因のうち、主に道にまつわる要因に着目して分析を行ってきたところである。

ところで、交通事故分析の方法にはマクロ分析とミクロ分析という2通りのアプローチがある。マクロ分析とはある地域、あるいは区間をとらえて、その地域、区間内に発生した交通事故の発生状況と、事故発生に関連のあると思われる地域、区間の有する諸条件—社会、経済、地域性、道路構造等—との関連性を調べるアプローチである。各地域、区間に共通する一般的な事故要因を見出すことができれば、総合的な交通安全対策の方向が把握できるという特徴がある。一方、ミクロ分析とは交通事故が「人」「車」「道路・交通環境」が主要因として発生することから、対象箇所等でこの三つの要因について交通事故発生との関連を細かに分析するアプローチである。対象とする事故に限られるため詳細なデータが比較的入手しやすく、その点から細かな分析ができ、その結果を当該区間や箇所の安全対策に反映できるものの、一般的な事故要因とその対策方法になり得るかは一層の検討が必要という特徴がある。

本研究では全体的な傾向を把握することを念頭において、マクロ分析の方法を用いた分析を行ってきた。本報告はそれら分析成果の一部をとりまとめたものである。